



TSUNAGU

- 小から中への滑らかな接続にむけて -

令和7年11月28日

我孫子市小中一貫教育だより
第393号

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室



我孫子市マスコットキャラクター
「手賀沼のうなきちさん」



布佐地区キャラクター
「ふさだ だしお」

我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子どもも
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子どもも
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子どもも

小中一貫オリジナルカリキュラム授業実践の様子を紹介するうな～！

「つながる 広がる 支え合う ~優しい街久寺家~」並木小・4年生「点字体験」

並木小学校4年生のオリジナルカリキュラムの授業で、我孫子市の社会福祉協議会と同会のボランティア市民活動相談窓口「て・と・り・あ」より2名の先生をゲストティーチャーにお招きして、点字体験を行いました。はじめに点筆の持ち方について説明がありました。視覚障害者の方の見え方や白杖を持っている人が点字と関わる場面について想起し、点字の有効性について学びました。

その後、母音と子音の説明があり、「まずはやってみよう。」と点字を実際に打ってみました。ぽこぽこと紙に穴を打っていくと、「おー。」「気持ちいい。」と声が上がりしました。次に「あいうえお」と打ちました。6つの点の並びで文字を表します。少し練習したら今度は自分の名前を打ちます。すると長音や濁音の表記はどうしたらよいかと質問が上がりました。点字を打つ場合には音声言語で表記することを知り、言語についての知識も広がる学習になりました。話し言葉と書き言葉について学ぶのは、高学年なので、音声言語を表記するのは初めての児童もいるはずですが、「間違えても大丈夫。」との先生の声掛けに、安心してチャレンジしていました。



点字は横書きであること、打つときは右から、読むときは左から、という説明に、紙を持ち上げて見たり、指で触ったりして、自分が打った点字を確かめていました。

最後に、生まれつき視覚障害のある方は、指先が敏感で読むことができ、見える人にとっては、指先で読むのは難しいとの説明がありました。福祉を柱にした久寺家中区のオリジナルカリキュラムらしい点字体験学習でした。

「湖北台未来へつなぐプロジェクト」～西小・2年生「わたしの町はっけん」

湖北台西小学校2年生の生活科の学習で町たんけんに行きました。西小学校の学区にあるお店や公共施設を探検して、詳しく知りたい場所をグループごとに訪れ、あらためて町の人やものに対して発見していく学習です。見学やインタビューをとおして詳しく知りたいことについて取材をしました。保護者ボランティアの方に付き添っていただき、11グループに分かれて自分たちの住む町を探検しました。



ケーキ屋さんやゴルフ練習場など、子どもだけでは立ち寄れない場所も、積極的に探検しました。ワークシートには、あふれんばかりに、取材記録が書かれていました。普段見過ごしてしまう見慣れた景色も、この日は違っていたようです。児童たちは、目を輝かせて、次々に見つけたものを友だちと共有しました。「知らなかったね。」「そうなんだ!」「おもしろいね。」児童たちからは、湖北台の町の魅力や新たな発見があったことを思わせる言葉が次々と出ていました。取材でわかったことを学校に持ち帰ります。

この授業の終わりに、引率でお世話になった保護者のかたに、しっかりとお礼を伝え、教室に戻りました。戻ってからは振り返りシートに取材した写真やメモをもとに学習したことをまとめました。地域の方に見守られて、教室の外で自分たちの住む町についてたくさんの発見をすることができました。